

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	秋田大学		設置者名	国立大学法人 秋田大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成17年度)		
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数	教員就職者数
教育文化学部	学校教育課程	100人	小一種免 中一種免(音楽) 中一種免(美術) 中一種免(保健体育) 高一種免(音楽) 高一種免(美術) 高一種免(保健体育) 幼一種免 養学一種免	平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度	103人	103人 100人 7人 7人 14人 6人 6人 13人 19人 19人	49人
	地域科学課程	65人	中一種免(社会) 高一種免(地理歴史) 高一種免(公民) 中一種免(家庭) 高一種免(家庭)	平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度	68人	12人 6人 6人 3人 0人 1人	3人
	国際言語文化課程	65人	中一種免(国語) 高一種免(国語) 高一種免(書道) 中一種免(英語) 高一種免(英語)	平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度	64人	21人 3人 3人 0人 16人 16人	2人
	人間環境課程	60人	中一種免(理科) 高一種免(理科) 中一種免(数学) 高一種免(数学) 中一種免(技術) 高一種免(工業) 高一種免(情報)	平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成10年度 平成13年度	46人	27人 9人 14人 13人 13人 0人 0人 3人	3人
	工学資源学部	地球資源学科	60人	高一種免(工業)	平成10年度	50人	8人
環境物質工学科		75人	高一種免(工業)	平成10年度	83人	9人	0人
材料工学科		60人	高一種免(工業)	平成10年度	57人	18人	0人

情報工学科	50人	高一種免(工業)	平成10年度	44人	11人	0人
機械工学科	80人	高一種免(工業)	平成10年度	86人	23人	0人
電気電子工学科	80人	高一種免(工業)	平成10年度	78人	18人	1人
土木環境工学科	55人	高一種免(工業)	平成10年度	64人	21人	0人
入学定員合計	750人	合計		743人	271人	58人
備考	<p>・「免許状取得者数」欄の、左側には各学科の実人数を、右側には学科内の教員免許課程ごとの人数を記載している。</p>					

(平成19年2月8日(木)) 秋田大学 実地視察委員:野村委員、平出委員

右欄の指摘等にかかる現在の状況		委員による指摘又は指導・助言等
全般的事項	・特記事項なし。	・教員養成の水準を維持向上させるため、特定の教員だけでなく、全学的に取り組んでほしい。
個別的事項	教員養成に対する理念等	・大学としての教員養成に対する理念・構想は明確化されているが、理念と実際が乖離しているところがある。教員の資質向上のために取り組んでいるFD活動をさらに発展させ、理念・構想と教育課程の関係をさらに具体化して取り組んでほしい。
	教職に関する科目等 教育課程	<p>・全課程を通じて、科目の設置趣旨に沿った内容になっているかについて再度見直しを行い、それらの内容をシラバスに明記すること。</p> <p>・教育実践力を育成するためには、教育実践に接近している教育課程論及び教育方法論に力を入れてほしいので、授業科目「カリキュラム開発論」「教育方法・技術論」はできれば各2単位(必修)にしてほしい。</p> <p>・法令の趣旨により、指導法に関する授業科目は、学習指導要領に掲げる事項に即して、包括的な内容を含んだ科目でなければならない。よって、これらの授業科目では、教科書または参考書として学習指導要領を使用するよう努めること。</p> <p>・授業科目「総合演習」では、今日の教育課題や地域の実情に合わせた内容を盛り込んでいるが、科目の本来の設置趣旨に沿って、教員の視野を広げるために、地球環境、異文化理解など人類に共通するテーマや、少子・高齢化と福祉、家庭の在り方など我が国の社会全体に関わるテーマについて取り扱うこと。</p> <p>・「教職に関する科目」の担当教員だけでなく「教科に関する科目」の担当教員も、教職課程の授業科目を担当しているという意識を持つように大学として働きかけを行って、全学的に大学の教員養成に対する理念を確認し、シラバスを総点検してほしい。</p>
	<p>・授業科目「教職導入ゼミ」は、教育職員免許法施行規則に定められている教職の意義等に関する科目であるにもかかわらず、教職の意義等に関する内容が少ない。</p> <p>・授業科目「カリキュラム開発論」「教育方法・技術論」が各1単位(必修)となっている。</p> <p>・教育課程及び指導法に関する科目全体としては、学習指導要領を使用するようにしているが、シラバスに授業で使用する「教科書」又は「参考書等」として学習指導要領を使用することが明記されていない科目がある。</p> <p>・授業科目「総合演習」が、「総合的な学習の時間」の授業設計及びその実践的指導力の養成に重点を置き過ぎているなど、設置趣旨に合致していない。</p> <p>・シラバスについて、担当教員によって記述がばらばらで統一性がない。また、教職課程の科目であることが明確に意識されていない授業科目がある。</p>	

	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成GPIに採択された「大学・附属・公立連携型教育実習」など、学校臨床型養成を軸とした教育実習の改革を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校臨床型養成という方針に基づき、教職指導体制(教員養成運営委員会など)を組んでカリキュラムの編成を行うなど、優れた取り組みであり、この取り組みをより一層推進してほしい。
教職指導、介護等体験等			<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目「教職導入ゼミ」では、附属学校教員による講義や学校訪問の機会を設けて取り組まれているが、法令上の内容、とくに教師論の内容をさらに充実させてほしい。
免許状取得状況及び教員就職状況		<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県教育委員会教員採用担当者を招き、学生の前で「県の求める教員像」等について話す機会を設けるなどの取り組みは行っているが、秋田県の教員採用人数が少なく(秋田県採用者数:平成19年度90人、平成18年度117人)、今後10年間ほど増える見込みがないことから、県内ではなく秋田県外への採用者数が拡大している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県の教員採用人数が少ないという現状ではあるが、県の求める教員像をさらに教育課程に反映させるとともに、県外への教員採用への対応も含めて工夫してほしい。
施設・設備の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践センターや図書館に、発行済の全ての教科書や、秋田県内で使用されている全ての指導書が整備されている。 ・図書館には、「北方教育」等、秋田県の貴重な資料が整備されている。 ・実際の学校の教室を模した「授業研究用の教室」をつくって、ビデオや高機能マイクを設置して、模擬授業を実施し、事後指導等にも役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「北方教育」研究などによって、貴大学ならではの教員養成に取り組んでほしい。 ・「授業研究用の教室」の設置は、教職課程を持つ大学の模範となるものであり、今後も引き続き充実・強化してほしい。